

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000033		
法人名	社会福祉法人大和福祉会		
事業所名	グループホームやまとの里		
所在地	山口県光市岩田267番地		
自己評価作成日	平成27年5月26日	評価結果市町受理日	平成27年9月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 27年 6月 19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個の事業所だけでなく同福祉会のグループ内での良い所、改善する所があれば福祉会全体で共有し、検討などしています。また、スタッフは毎月勉強会に参加し、知識や技術を身に付ける機会を設けてあり、サービスの質の向上に努めています。
各御利用者の生活歴や意向、好みの把握に努め、1人1人に応じた支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出行事や食事会、和菓子アート、避難訓練などの事業所で行われる行事は、毎月毎に、担当者の職員を決めておられ、当番の職員は1ヵ月間の行事の時間やスケジュール、参加する利用者や職員の配置、事故防止の対策、準備品、留意点などを記入した起案書を提出し、法人の委員会、看護職や栄養士も参加されて検討し、安全面に配慮されて実施しておられます。和菓子アートは、栄養士のアドバイスで季節感のある菓子づくりを月2回、利用者と一緒にされます。バイキング料理(郷土料理、おでん、麺、おはぎ)には、家族や運営推進会議のメンバーに呼びかけをされ、利用者と一緒に食事を楽しまれています。利用者を担当している職員が、利用者の1ヵ月の状態や、日々のレク、受診状況、行事、利用者の様子などを手紙にされて、いろいろな場面での利用者の写真を載せて毎月家族に送付して知らせておられます。月1回の法人研修の終了後に事業所独自で職員の要望や課題をテーマに内部研修をされ、働きながら学べるように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に運営理念を掲示しており、職員間で共通理解し、実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。会議や日常のケアの中で理念を確認して共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同福祉会の施設慰問に参加したり、地域の馴染みの場所に外出したりしている。	法人の施設に来訪しているボランティア(日本舞踊、フラダンス、楽器演奏、笑劇団など)との交流がある他、法人主催の夕涼みや運動会に参加している地域の人と交流している。地域にある障害者施設のフェスティバルに参加したり、併設のデイサービスセンターの利用者と交流している。散歩の時や近くのスーパーでの買い物時に出会った人と交流している。法人施設間での交流はあるが、日常的な地域との付き合いは少ない。	・地域との付き合いの工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の対応のコツなど、職員は勉強し実践し、運営推進会議等を通じて地域の方や家族の方達と話し合っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価を職員や運営会議の場で発表している。目標計画に沿って、少しずつ改善に取り組んでいる。 今回も職員全員で自己評価を行った。	管理者は、ミーティングで評価の意義について職員に説明し、全職員に評価するための書類を配布して記入してもらい、まとめている。自己評価の過程で「地域とのつながりがむずかしい」などの意見があり、課題として取り組むこととしている。前回の外部評価結果を受けて、応急手当てや初期対応について、研修の中で訓練を取り入れているなど、改善に努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を行い、左記報告を行った上で意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。 議事録を残し、情報の共有をしている。	年6回開催し、事業所の取り組みについてや外部評価結果、利用者の状況、事故報告などを行い、意見交換しているが、会議をサービス向上に活かすまでには至っていない。家族の参加はない。	・メンバーの拡大 ・家族の参加の検討 ・意見を活かす取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員の方が運営委員のメンバーで、協力関係を築けている。	市担当課とは、電話や直接出向いて相談して助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議で情報交換しているなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを置いている。 勉強会を実施し、職員は身体拘束のない介護を目指す方針を正しく理解している。	マニュアルがあり、職員は法人研修で身体拘束について学び、正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、職員相互で防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	受け入れをしている同福祉会の管理者より資料の作成と勉強会の実施をしてもらっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき説明し、理解納得していただいている。 また改定等の際は文書並びに連絡を行い理解納得していただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	24時間の受付体制と第3者委員を選出し、外部者への相談、又は苦情を申し立てられるようにしている。 意見箱の設置もしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。電話や面会時に家族から意見や要望、苦情などを聞いている。利用者を担当している職員が、利用者の1カ月の状態(食事、入浴、排泄、睡眠)、日々のレク、受診状況、行事、利用者の様子などを手紙にして、いろいろな場面の写真を載せて、毎月、家族に送付して知らせているなど、家族は利用者の状態や様子がわかり、意見が言いやすくなるよう工夫している。運営に反映させるまでの意見や苦情は出していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を聞き、出来る限り反映できるように心掛けている。 また同福祉会同士の運営に関する意見交換の場も設けており、管理者が職員からの意見を代表して報告している。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがい、向上心をもって働くことができるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や外部研修の参加機会を確保しており、研修内容を共有する場も設けている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて、参加の機会を提供している。月1回の法人研修(19時から1時間程度)があり、勤務中以外の全職員が参加している。法人の研修終了後に、事業所独自で、職員の要望や課題をテーマに内部研修(1時間程度)を実施している。毎週月曜日、介護福祉士の資格取得に向けた勉強会(17時から)を資格を持っている職員が講師となって実施している。介護技術については、管理者が指導したり、職員同士でお互いに学び合い、働きながら技術や知識を身につけていくように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同福祉会の交流(運動会、夕涼み会、勉強会など)を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面接し、ご本人の要望や意向等を聴取して受け入れ態勢を整えている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は傾聴し、意向に沿えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望から支援方法を見極め、職員が対応できるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない所の援助を行い、出来る所はやっ ていただける関係を築いている。 家事作業の声掛けもしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは密に連絡をとり、ご家族への思いを大切に して関わっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会していただき、馴染みの場所へのお誘いが実現できるように援助している。またご家族と一緒に外出している。	家族や親せきの人、友人、知人の来訪がある他、電話の取り次ぎや年賀状を出すなどの支援をしている。家族の協力を得て一時帰宅や墓参り、散歩、買い物、外食などに出かけているなど、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者一人一人の特徴を理解し、適切なレク、家事作業を提供し、それを通じて個々の能力や自尊心を高めることで本人の自信に繋がり利用者同士、お互いに認め合う関係作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を傾聴し把握に努めている。ご家族からも意向や希望の聴取している。	アセスメントシートや24時間データシートを活用している他、日々の生活の関わりの中での利用者の様子や聞き取った事を個人記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネージャー、ご本人、ご家族から情報収集に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で意見を共有することで現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施し、ご本人やご家族の意向を職員同士で意見を出し合っ、現状に即したケアプランを作成している。	本人の思いや家族の意向、法人の看護師の意見などを参考にして、担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月に1回カンファレンスを行って見直しをしている他、利用者の状態に変化があればその都度モニタリングして計画を見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録や日誌、申し送りノートを活用して職員間で情報を共有し、実践に繋げている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族や、地域の方を迎えて食事会等を行い、交流の場を設けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同福祉会のデイサービスと連携して音楽や踊りのボランティア等の慰問を受けている。ご家族が花を持って来て下さったりしている。近隣に花の観光地が多いため、見学に行く等して活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人の状況報告を協力医療機関に密に行い、本人、家族の納得を得て受診の支援を行っている。</p> <p>また緊急時も適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の同意と納得を得て協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。法人の看護職と連携を図り、毎週水曜日に併設の特別養護老人ホームに来訪している協力医療機関の医師の受診の支援をしている。受診時には日々の体調管理や服薬管理をしている法人の看護職が医師に情報を伝え、健康診断時には家族が同席し医師から説明を受けている。緊急時には法人の看護職が、協力医療機関と連携して対応しているなど、利用者が適切な医療をうけられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日情報交換を密に行っており、御利用者が適切な医療を受けられるように支援している。</p>	/	/
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は付添い、情報提供書にて入院前の状態を報告。</p> <p>医療方針などの把握と、退院後はサマリーを通して経過や留意点を把握している。</p>	/	/
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り介護指針に基づき、終末期ケアが必要になった時、ご本人やご家族の思いを確認し、医師、看護師、栄養士、介護職員で話し合い、その人らしい人生が全うできるように方針を共有して、終末期ケアが行えるようにしている。</p>	<p>重度化に向けた法人の指針があり、事業所のできる対応について、契約時に家族に説明している。重度化した場合は、家族やかかりつけ医、法人の看護職、栄養士、職員とで話し合い、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。看取り介護の法人研修を受けている。</p>	
35	(15)	<p>○事故防止の取り組みや事故発生時の備え</p> <p>転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>事故報告書を記入し、対応策を職員で話し合い、再発防止に努めている。また職員が実践力を身に付けられるように日々の中で訓練を行っている。</p>	<p>事故発生時にその場にいた職員が記録し、その日の内に管理者に提出して、看護職も含めて対応策を話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。介護計画に反映させている事例もある。法人の看護職の指導で研修し、骨折や心肺蘇生、誤嚥、呼吸困難、胸痛、吐血、下血、やけど、脳貧血などの急変時の対応を、訓練を含めて学んでいる。</p>	<p>・応急手当や初期対応の訓練の継続</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は年2回実施している。地震・水害についての訓練は未実施であるがマニュアルを作成してある。5月に行った火災訓練には地域の方も参加していただいた。	年2回、火災時避難訓練を実施している。1回は法人他施設と合同で、消防署の協力を得て行い、1回は消防設備業者の協力を得て実施している。自治会長が1回訓練に参加しているが、災害時の地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や尊厳について勉強会を行っており、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は、法人研修で接遇や尊厳について学び、利用者がその人らしく、自信を持って生きられるように、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや自己決定を尊重できるように努めている。又、定期的に本人の意向をまとめ、職員間で共有している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やまとの里運営理念に基づき、ご本人のペースを大切に支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回出張理美容を利用している。洋服も着替えの際にご本人の好みを尊重しながら職員と一緒に選んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け等出来ることを職員と一緒にに行い、利用者と職員は同じテーブルで同じ物を一緒に食べている。 和菓子アート、バイキング、お弁当等食べることが楽しみになるように工夫している。	三食とも法人の配食を利用している。利用者は盛り付けやテーブル拭き、食器洗い、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じものを食べている。和菓子アートやおでんバイキング、おはぎバイキング、麺バイキング、郷土料理バイキング、おやつバイキング、松華堂弁当(月1回)など、食を通じた様々な工夫をして、利用者の食事が楽しみなものになるように取り組んでいる。バイキングには、家族や運営推進会議のメンバーなどが参加し交流している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を1日を通じて確保できるように、摂取量のチェックと記録を行い、1日を通じて確保できるように支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者の能力に応じた口腔ケアを実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくおむつは使用せず、トイレでの排泄を支援している。又、チェックシートを活用し、排泄パターンを掴み、トイレ誘導や声掛けを行っている。	チェックシートを活用して、排泄のパターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、看護師に報告して、食事・水分・薬代・運動の指示を受け、総合的に排便コントロールができるように心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴を行っている。 行事があるときもできるだけ入浴してもらっている。	入浴は毎日、13時から16時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。シャワー浴のみを希望している利用者には、シャワー浴でも気持ち良く温まるように工夫して支援している他、どうしても入浴したくない利用者には、着替えや清拭で対応しているなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や、その時々状況に応じて休息を促している。 ナースコールやセンサーマットが鳴ればすぐに対応し、安心して眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬代の内容はいつでも見られるようにしており、服薬支援と症状の変化を見逃さず、異常があれば医療と連携して対応している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常行っていた洗濯物を干したりたたんだり、食器洗いや楽しんでいただけるレクの提供や、気分転換に散歩等の支援を行っている。	テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、歌を歌う、季節に合わせた壁飾りづくり、ぬり絵、習字、折り紙、計算ドリル、ことわざ、穴埋めクイズ、パズル、ひな祭り、七夕、運動会、誕生日会、苗植え、野菜の水やり、料理の盛り付け、テーブル拭き、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の仕分けなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者一人ひとりに応じた張り合いのある暮らしが出来るように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクや行事で外出支援をしており、日常的には天気が良ければ事業所周辺を散歩している。行事で外出する際には、あらかじめご家族にお知らせすることにより、現地で家族の時間を過ごしていただいている。	法人施設内の散歩や、敷地内にある地蔵にお参りしたり、買い物支援をしている。季節の花見(桜、紫陽花、バラ、紅葉狩りなど)には、家族の参加も呼び掛けて、一緒に外出出来るよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1度移動販売が来るものの、金銭管理ができる御利用者がおられず、管理は苑が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書くことは困難だが、年賀状作りの支援や、電話の希望があれば、ご家族の許可の元で支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の掲示板に季節の飾り付けをし、ご家族の協力により季節の花を活けたりプランターに植えたりしている。 室温等はエアコンや加湿器、換気等で調整している。	共有空間は大きなガラス戸から、自然の光が差し込んで明るく、広々としている。玄関や洗面所、テーブルなど数か所に家族から届いたり、職員が持参した季節の花を飾っている 他、利用者と職員が一緒につくった季節に合わせた作品を飾り、利用者が季節を感じるができるように工夫している。リビングにテーブルや椅子を配置してある他、玄関外にベンチが、玄関に入っすぐソファが置いてあり、利用者の居場所づくりをしている。温度や湿度、換気、音などに配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーでくつろげる空間を作ったり、事業所前のベンチで居場所を確保している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力により、馴染みの物を持ち込んでいただき、ご家族の写真を置いたりしている。 また居室の物品を整理し、心地よく過ごしていただくように支援している。	収納ケース、衣装掛け、ぬいぐるみなどを持ち込み、孫の写真や家族の写真、自分の作品、誕生日祝いの色紙などを飾って、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は1人1人の特性を見極め、ご本人が出来ない所の援助・支援を心掛け、ねぎらいながらなるべく自身で出来るように支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームやまとの里

作成日：平成 27 年 9 月10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域への外出行事・地域の催し・ボランティア慰問受け入れ・併設の施設に来る慰問見学を実施しているが、実質地域との付き合いは希薄な状態。	地域との付き合いが増える。	苑行事に地域の方にも積極的に参加していただく。 運営推進会議で地域の行事等の情報を収集し、参加の機会を設ける。	1年間
2	5	運営推進会議の参加者の拡大や家族の積極的な参加を促す必要がある。 また運営推進会議で出た意見を今後の運営に活かす取り組みが必要。	運営推進会議出席者の拡大(家族や関係機関)と会議内容を今後の運営に反映できる。	家族の積極的な会議出席が行えるように、案内状を送付する。 関係機関(消防や学校等)にも参加の促し。 会議内容の職員間での共有と実践。	1年間
3	33	事故発生時や、緊急時の対応を今後も職員は周知徹底し、いざという時の対応が確実にできるようにしなければならない。	事故発生時や緊急時の対応が確実にできる。	職場研修会の実施。 普段から職員間での対応方法の確認。	1年間
4	36	非常災害発生時に地域との連携が確実でなく、緊急時に協力が得られない可能性がある。	地域との協力体制が構築できる。	運営推進会議を通じて、非常災害時の協力体制を確認する。	1年間
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。